

南アフリカ 柑橘類の2023年EU向け輸出を終了

EUROFRUIT 2023年9月12日

南アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)と青果物輸出業者フォーラム(FPEF)は、南アフリカ産柑橘類の欧州連合(EU)向け輸出は金曜日までしか受け入れないことを確認し、CGAは「西ケープ州と北ケープ州からの輸出を除き、南アフリカから欧州に輸出されるオレンジの検査は9月15日金曜日が最終日となる」と通知した(以下「」は同通知の内容)。「欧州における南アフリカ産柑橘類のシーズンは10月15日頃に自然と終わるので、これは承認済みのオレンジが欧州に到着する時間的余裕を与えるものである。」

「また、CGAとFPEFの発表により、北半球の産地は現在の好調な市況を活用することができる。南アフリカの柑橘類産業がこの時期に柑橘類の需要への対応を北半球の産地に引き継ぐのは、欧州の柑橘類生産国、特にスペインとの、芽吹きつつある協力精神の現れである。」通知によると、欧州を含む世界中の消費者は、南アフリカ産の柑橘類に対して「異例の食欲」を示していた。「欧州域内の業界(EUの生産者)は今年、消費者のオレンジ需要を満たすことができなかった。」

南アフリカの柑橘類業界は、柑橘類の輸入条件と黒星病についての論争が続く中、EUにオリーブの枝(和解の象徴)を差し出すものであることを通知内で示唆した。他方、いまや明らかに品不足の、そしておそらく消費者価格の上昇の責任を欧州の柑橘類生産者に負わせている。

通知はまた、南アフリカの生産者を称賛した。「継続的な計画停電、異常な気象条件、港や鉄道の物流上の制約など、2023年のシーズン中に生産者が直面した課題を踏まえ、CGAとFPEFは、生産者、輸出業者、その他の業界関係者の継続的な取組みと14万人の生活を支える業界への貢献に感謝したい。」

CGAは、「地域の生産者が現在の経済的逆境に耐えられるよう、CGAとFPEFはこれまでと同様に、政府や他の流通関係者との協力に引き続き取り組む」と結論付けている。

なお、CGAは、シーズン開始時の予測輸出量が1億6,500万箱であるのに対し、最新の予測が1億5,900万箱であることを確認した。わずかに増加したマンダリンを除いて、すべての品目で昨年を下回った。

執筆者: フレッド・マインチェス

(関連記事)南アフリカ 西ケープ州の柑橘類輸出は2週間早く終了

FreshPlaza 2023年9月18日

業界の専門家やエコノミスト達は、西ケープ州の柑橘類の輸出シーズンが通常より2週間早く終わると予測している。西ケープ州の農業担当行政評議員(州の大臣)であるアンドリカス・ヴァン・デル・ウェストハイゼン氏によれば、収穫の時期は、花から果実が形成される時期から、樹上で果実が熟すまでの過程における様々な要因によって決まる。

ヴァン・デル・ウェストハイゼン氏の話:「したがって、雨の多い冬の天候だけが原因であると言うのは気が進まない。ほとんどの生産者が果樹園に必要な排水設備を確保しているので、最大の課題は冬の降水量が一般的に多かったことではない。問題だったのは、洪水(2023年6月中旬)と、繰り返し発生した降雹を伴う嵐で、直近の嵐は今週シトラスダール地域を襲った。柑橘類の果樹は通常、果実が形成される夏の間は灌漑されるため、(灌漑ポンプが止まる)計画停電も収穫量に悪影響を及ぼす。」

「今年は収穫シーズンが少し早く終わるだけでなく、収穫量も予想より約10%少なくなると見られる。これにより、投入費用が増加し続ける中で収入が減少するため、生産者は困難な状況に置かれることになる。通貨(ランド)の安値は、輸出可能な果実にとっては少し助けになる。しかし、雹で損傷した果実は輸出できず、果汁工場向けに出荷すれば大幅に低い価格で取引される。全体として、西ケープ州の多くの柑橘類生産者にとって奇妙で困難な年であった。」

出典: jol.co.za